

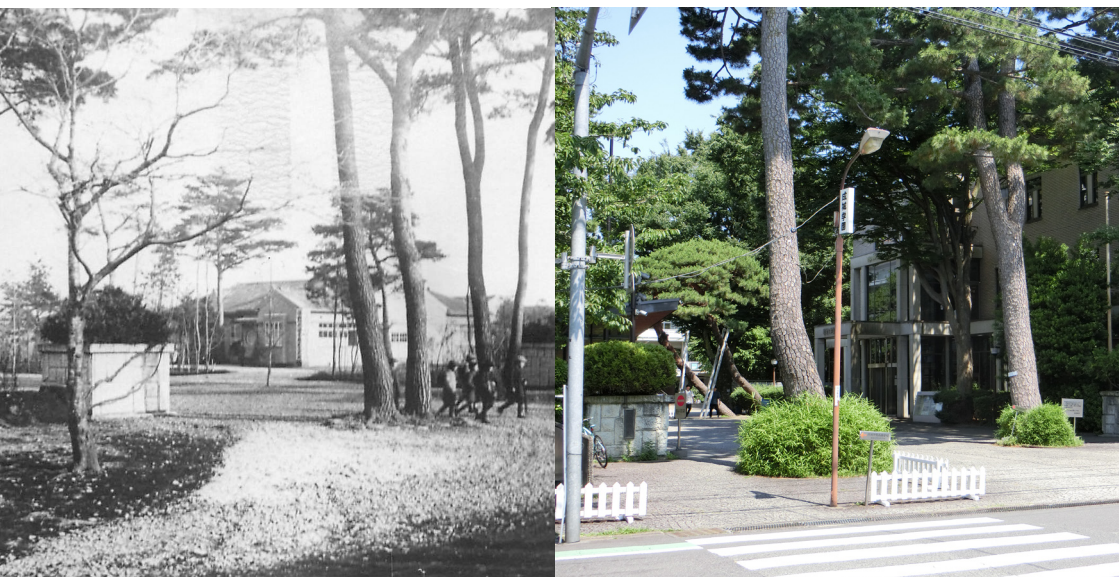


セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5
成城の100年を考える



■成城学園正門のクロマツ■（100年前と現在の学園正門）
本数は減っているが、今に残っている。開発の際には、このクロマツを
目印に正門の場所を決めて、街の区画を定めていったと言われている。

まちの市民力!! P.6 支えあう「こぐまの会」



せたがや 災害ボランティアセンターレポート P.7 穴水町災害ボランティアセンターの運営を支援しています



ボランティア募集、講座・イベント・その他 &
おたがいさまビュー P.8-P.11 夏のボランティア体験「ナツボラ&ナツボラ・ジュニア」開催のお知らせ

成城の100年を考える

寄稿／荒垣恒明さん（成城学園教育研究所）
あらがきつねあき

成城の街のシンボル・銀杏並木

成城地区は、武蔵野段丘西端の国分寺崖線上の台地に所在します。このみどり豊かな台地の上では、今年から地区の100年を記念する動きが本格化します。地区の住民が中心になって実行委員会が組織され、この7月には、成城学園澤柳記念講堂においてオープンイベントを開催、その後、成城自治会発足100年にあたる2028年2月まで、様々な催しが企画されるはずで。

昨年は関東大震災発生から100年目、2026年はちょうど昭和改元から100年に当たる

ことから、政府主催の式典を開催すべきという動きが出ていることが、今年の5月にはニュースになっていました。それぞれ性格の全く異なる節目の僅かな合間に、成城の100年が存在している訳ですが、なぜそうなるのかという点について、少し誌面をお借りしてお話をしていきたいと思います。

100年前の成城地区は「東京府北多摩郡砧村大字喜多見」と呼ばれる土地でした。元々、東京の都心部というのとはとても限られた範囲であり、世田谷、練馬、杉並といった周辺地域は「郡部」と呼ばれていました。大正から昭和にかけては、この郡部の人口が増えて、急速に住宅地化していく時代でした。その背景には、産業構造の変化、鉄道などインフラの整備、関東大震災による被災など、さまざまな要因があったのですが、とにかく田園地帯にはそれまでとは違う変化が生じていくことになります。

砧村喜多見の高台の住宅地化という動きは、それだけを一つの現象として切り取ってしまえば、郡部における郊外住宅開発の一コマとして位置づけられるものでしょう。しかしながら、成城地区の開発は、成城学園が移転してきたことから始まったという点に特筆すべき部分があります。この地区では、土地会社でも鉄道会社でもなく、教育機関が開発の主役となっていたのです。

* * *

ここで少し成城学園という学校についてふれておきましょう。成城学園は、現在の新宿区牛込にあった私立成城学校の中に成城小学校が設置されたことに始まります（1917年創立、財団法人成城学園の設立は1926年）。創立者は澤柳政太郎（1865～1927）という人物です。明治期に創設された成城学校は、陸軍の士官を目ざす若者に中等教育を施す名門私学でした（現・成

城中学校高等学校）。この学校への校長就任を要請された澤柳は、自分の理想とする初等教育を実践する場として、新しく小学校を新設したいという条件を提示して、校長就任を受け入れたといわれています。

澤柳は、学園創立者という以上に、文部官僚として日本の近代教育、特に初等教育の仕組みを整えた人物として重要な足跡を残しています。東北帝大、京都帝大の総長を務め、大正大学の初代学長でもありました。教育学者、教育実践家としても大変優れた人物で、その澤柳が新設した成城小学校は大変注目され、当時の新しい教育潮流（大正新教育）を担う中心的な存在となっていくきます。成城小



澤柳政太郎

学校での実践の成果は、広く全国の小学校に影響を及ぼしていくことになりました。この学校には澤柳の名声のもと全国から有能な教員が集まり、そして、特色ある学校で我が子を学ばせたいという、いわば教育への意識が高い保護者を惹きつけることになりました。有能な教員が集まったこと、それを評価する保護者層が形成されたことが、街としての成城の誕生にも深く関わっていると思います。

* * *

成城小学校に通っていた児童の学齢が上がるに従って、小学校の上には中学校、高等学校を設置して欲しいと要望する声が、保護者から高まっています。成城小学校を起点とした学校が総合学園化を目ざすようになって、牛込の成城学校から離れて、自前の施設を郊外のどこかに建設しようという動きが本格化します（この動きは関東大震災発生前からありました）。結果としては砧村喜多見に移転することになるのですが、そこに至るには紆余曲折の道程があり、関

係者は移転先の選定に奔走しました。児童、生徒の通学の便を考えると、まずは中央線沿い、甲州街道沿いの地域が候補地となるのですが、①小田急線（小田原急行鉄道）の開通情報に接したこと、②用地買収の一括交渉が可能な地主がいたこと（神奈川県宿河原の鈴木久弥、③台地沿いの高台に位置したこと、が主な要因となって砧村への移転が決定します。

そして学園による郊外移転が特に興味深かったのは、新しい学校と共に街も一緒に作ってしまおうという発想が早い段階からあって、実際にそれが具体化していったという点にあります。なぜ街も開発しようとしたのかというと、教職員や保護者に住宅を提供する目的と共に、住宅地経営を行って、その利益を新設する七年制高等学校の運営資金に充てようという意図がありました。しかしその根本には、理想の学園都市を開発して、子どもたちや若者に、良質な教育環境を提供しようという意識が強くあったことは間違いありません。

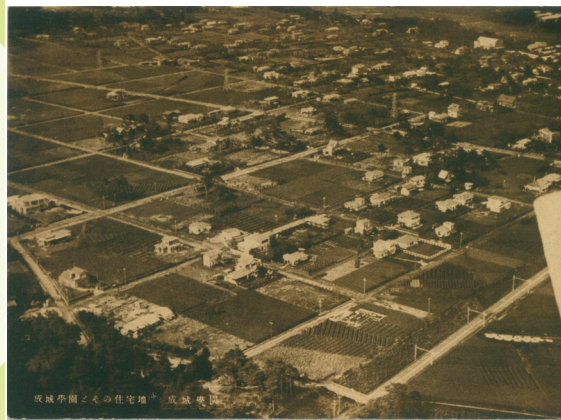
このように少し歴史を紐解いてみると、学校と街は、初発の段階から共に歩んできたことが分かります。「成城」と呼ばれる学園と住宅地が国分寺崖線上の台地に所在すること、駅のすぐ近くに学園が存在することには、前述のような歴史と深い関わりがあります。その歴史が、なぜ今年100年を迎えるのかといえば、1924年（大正13年）7月6日に砧村の新校地で起工祭が実施され、その後、砧小学校に場所を移して起工式が開催されたことを以って、地区開発のスタートと位置づけているからなのです。起工式には、砧村の有力者を始め多くの来賓が招かれていましたが、澤柳がそのうちの一人に送った書簡には、「砧村に一大理想郷を作りたく存じ居り候、（中略）日本に於ける有数の、否、第一の住宅地区たらしめたく」と記されています（関屋貞三郎宛て書簡）。こうした考えが、決して創立者の独りよがりとならず、結果としてこの地で実践されていたと

いう点は、とても大事なことだと思います。ですが、実際に「理想郷」を作るためには多大な労力が伴いました。この地区の開発に奔走したのは、学園の教職員（最初は赤井米吉、後の中心は小原國芳）と保護者による後援会の面々でした。特に後援会では「地所部」という専門部署を組織して、区画整理から宅地整備、分譲といった事業を進めていきました（写真下記）。開発の舞台となった高台には、確かに人家はほとんどなく、田圃も開かれてはいませんでした。が、砧村の人々が生活のために用益していた山林だったため、開発は、地域の人々も巻き込んだ共同事業という形で進んでいくことになりました。その過程では軋轢が生じることもありましたが、事業自体が頓挫するということはなく、学園都市の基盤が作られて今に至っています。教育機関が主体となつて、身の丈にあった街づくりを進めたということが、結果として功を奏したのだと思います。



1925年に学校が移転してきます（成城第二中学校）。当初は鉄道も通っていないかったのですが、1927年に小田急線が開通し駅も開業します。その2年後には、朝日新聞社が主催する住宅展示会が開催され、電車に乗って多くの人が訪れました。1932年には、後の東宝撮影所につながる写真化学研究所が設立され、街も段々と発展していくことになります。ここに掲載した画像は、住宅展示会

を開いた頃の成城地区を上空から見た様子です（写真左記）。すでにきちんと区画割がなされ、建物が建ってきている様子が分かります。この頃に、今に続く自治会が、柳田國男など新住民と地主の有志によって組織されます（当初は「草分会」と呼称）。そして、この住宅地に関するところについては、自治会が住民の声を集め、砧村役場や時に小田急と



根気よく折衝しながら、まさに自治を進めていったことが、当時の自治会報『きぬた』の記事にはよく示されています（『きぬた』は1933年創刊、戦中・戦後の中断期間を挟んで、2024年6月時点で通巻854号）。そろそろ誌面も尽きようとしており、ここでは具体的なことにふれることはできませんが、こうした地区としての主体的な活動の上に、今の成城の100年があるのです。学園都市という起点を重んずる住環境への意識が、「成城憲章」（2002年制定）に結実していったことは、その一つの印象的な表れといえるでしょう。この100年は、「昭和100年」のような〈区切り〉としての節目ではなく、〈積み重ね〉の上での節目なのです。節目の際には周年行事が開催されることは多いのですが、それと共に、〈節目〉を振り返りの機会と捉え、何が積み重ねられてきたのかという点について、深く内省して足許を見つめ直すことが大事なのではないでしょうか。それぞれ

の地区として、世田谷として、ひいては私たち自身として、何を積み重ねてきて、今、何を積み重ねていっているのかについて、せわしない日常に押し流されることなく、じっくりと考えていきたいものです。そのことが、次の100年に繋がる礎を築いていくのではないのかと思います。

*7月6日、7日に、成城100年祭の開祭式（記念式典と各種イベント）が開催されます。詳細は下記のURL か、二次元コードからホームページをご確認ください。

*6日は、式典会場近くの成城学園歴史記念館にて展示をご覧になれます（「文化でたどる成城の100年」開催中）。

【成城100年祭ホームページ】
<https://seijo100.com/>





穴水町災害ボランティアセンターにて

穴水町災害ボランティアセンターの運営を支援しています

せたがや災害ボランティアセンターでは、5月16日から毎週末、石川県穴水町（あなみずまち）災害ボランティアセンター（以降「V.C.」に災害ボランティアアコードイネーターを派遣しています。これ

は、これまでの活動実績が評価され、現地の要望により行っているものです。具体的には、毎週木曜午後には東京を出発し、金・土・日の3日間穴水町でボランティアと活動先をつなぐコーディネートショを担っています。

全国から訪れるボランティアの受付・活動内容の確認、ボランティアそれぞれの活動先の決定、全体オリエンテーション。ボランティアに配布する資料の準備や説明。活動に必要な資機材の整備、ボランティアに配るお茶や水、貸し出す安全装具の準備など、作業は膨大かつ多岐にわたります。

ボランティアを活動先に送り出した後、すぐに次の活動先の準備にとりかかります。その間も被災した住民からの相談を受けてボランティアへのニーズ票をまとめ、活動先が安全かどうかの確認に向くことも。並行して現場からV.C.への報告や確認、相談など様々な連絡に対応するうちに時間はどんどん過ぎます。翌日のボラン

ティア活動数を確認し、対応するニーズの優先順位を決め、依頼者にアポイントの電話を掛けて活動の順番や使用車両を決めていきます。

ボランティアが活動から戻ってきたら活動報告を受けてねざら、報告内容をニーズ票に記載し、順次入力、集計します。V.C.に戻ってきた車両の点検や燃料補充、資機材の整備、スタッフの終礼で一日を終えます。

運営はなかなかハードですが、災害ボランティアアコードイネータースキルアップ講座等で学ばれた方々や職員が実地で得た気付きは世田谷区にとっても大変貴重な経験。現地での活動時間を少しでも長く確保し、移動の負担を軽減するため東京・金沢間は新幹線を利用するなど持続可能なよう配慮しながら、できるだけ現地に寄り添っていきたいと考えています。

次号では、コーディネートとして現地V.C.を支えてくださった方々の声を紹介します。

支えあう「こぐまの会」



「世田谷区こぐまの会のネットワーク」の企画「世田谷の教育現場をどう変えるか」に「こぐまの会」のメンバーが何人も参加し、ガザを想う「僕たちは見た」の上映会、「桑山医師と考える「ガザの今と平和」」など子どもや平和がテーマのさまざまな集会には「こぐまの会」が共催。世田谷で「こぐま」があちこちに出没しています。「こぐまの会って何？」のナゾに迫りたくなりました。

はじまりは世田谷区教育委員会が主催している「不登校保護者のつどい」。弦巻にあった教育センターで月に二回、集会室「こぐま」で開かれていました。区内で不登校の子どもや親に寄り添ってきた

人たちが、教育指導課の先生たちとずいぶん助けられた、と長男が不登校になった10年前から参加してきた安藤玲子さんはいます。

学校やいろいろな相談機関で話をしてもうちがあかない日々。「つどい」で同じ問題を抱える親たちと出会い、一人ひとりが経験を語り合う中から「自分一人じゃない」と、横のつながりができました。癒される心の居場所でしたが、親や当事者の子どもに「進路選び」などの情報を提供し、経験を共有し、「縁」を大切に一緒に成長していく会となりました。今や、250人が「こぐま」でゆるくつながっています。

時には涙とともに子どもの不登校を語る親たちを「何も言わなくても、困っている人がいたらそれぞれが動いて支えあう。そこがすごい」と安藤さん。動いた一人、島田有子さんは烏山地区で不登校の親たちの懇談会「からちゅんカフェ」を月に一回開いています。毎月第4月曜日の15時から19時ま

で開かれるのが、三軒茶屋の「みつる堂」での「ロゼット食堂」。

親子、こども、親、そしてボランティア、先生、行政など、さまざまな人たちが食事を共にしながら交流できる場です。

親たちはわが子の不登校を何とかしたいと思っています。でも、子どもたちを受け入れる場の数が足りていません。子どもは行きたいと思った時に行かなかったら意味がない、「待ったなし」なのです。だから、公立学校が変わらなくては、との思いは切実です。

困っている親たちのところに入っていく、上下関係のないピアカウンセリングにより、「支援」ではなく「支縁（しえん）」をするのが「こぐま」。わが子だけでなく、周りの子ども、親たち、地域へと広がり、さらには、世界の子どもたち、平和の問題にも黙ってられない。「こぐま」はどんどん成長していきます。

自宅の掃除・片付けボランティア求む

3年前に転倒したことをきっかけに、立ち上がることが難しくなってしまった80代女性が、自宅の玄関・ベランダ・窓の掃除をしてくれるボランティアを探しています。また、衣類や本の要不要の仕分けと処分（ごみ出し等）もお願いしたいです。日常生活はヘルパーさんの力を借りながらご自分で取り組んでいますが、どうしても自分でできないことのサポートを希望しています。前述のお願いしたいことの一部分だけでもサポートしていただけると助かります。活動日時は応相談。不定期でもかまいません。詳しくはお問合せください。

- 日時／応相談（水・土・日除く）。1回2時間程度
- 場所／高齢女性の自宅
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅徒歩6分
- 条件／交通費実費支給（上限あり）
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 原口 TEL：03-5712-5101
メール：haraguchi@otagaisama.or.jp

幼稚園のお迎えをしてくださる方募集

4月から年中さんになった女の子です。幼稚園から自宅までのお迎えをお手伝いして下さる方を募集しています。週1〜2回。特に下のお子さんの体調が悪いときにお手伝いして下さると助かります。

- 日時／日には要相談。14時〜17時の間に幼稚園にお迎え。
- 場所／芦花幼稚園（粕谷2丁目20-1）から自宅まで（大人の足で10分位）
- 交通／京王線芦花公園駅徒歩15分
- 条件／女性
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

自宅から学校の登校に付き添ってくれるボランティア募集

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、自宅最寄り駅（田園都市線の駅）から後楽園駅近くの学校までの登校に付き添ってくださる方を必要としています。現在、複数のボランティアさんとご家族で交代で付き添っていますが、あと何名か手伝ってくださる方がいると助かります。女の子は、高校3年生でおとなしい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解しているので、基本的に彼女が移動するのを側で見守っていただきます。週1回から可。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／月・火・木：自宅最寄り駅7時50分ごろ待ち合わせ、8時40分ごろ学校着。
- 場所／自宅最寄り駅と後楽園近くの学校との間
- 交通／東急田園都市線と東京メトロ後楽園駅
- 条件／女性、交通費支給
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当 市古 TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

車いすの女性の通院付き添いや家事ボランティア募集

車いすを使用している80代の女性が、通院の付き添いや自宅の掃除や買い物など家事をサポートしてくれる方を探しています。現在一人暮らしのため、生活のサポートをしていただけると助かります。活動日は、通院日により変動しますが平日午前中が多いです。家事サポート日は応相談です。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／平日の日中（応相談）
- 場所／玉川の自宅、病院（3か所）
- 交通／田園都市線・大井町線二子玉川駅徒歩7分
- 条件／報酬：1,000円/1時間（区の緊急介護人に登録していただきます）
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

【急募】育児のお手伝いをしてくださる方募集

現在、3か月と1歳の2人のお子さんを育てるお母さんが、肋骨を骨折してしまったため、育児のサポートをしてくださる方を探しています。医師から安静にとの指示があるものの、幼い2人の子の育児は動かずにはいられません。夕方の時間帯に、1歳の女の子の食事介助、おむつ替え、入浴後のサポートなど週1回でも手伝っていただける方がいると助かります。詳しくは、お問合せください。

- 日時／平日（特に火〜木曜）16時30分〜18時30分（応相談）
- 場所／喜多見の自宅
- 交通／東急田園都市線二子玉川駅または小田急線成城学園前からバスで15分程度
- 条件／女性希望、交通費支給
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

「秋桜祭」当日ボランティアのお願い

知的障害者の通所型・生活介護事業所の世田谷区立千歳台福祉園で開催する「秋桜祭」（コスモまつり）の当日ボランティアを募集します。秋桜祭は、地元の自治会（町内会）の皆様との共催で様々な催しや企画をしており、ご利用者様やご家族様をはじめ、地域の皆様に楽しみ喜んで頂けるお祭りです。そのような地域密着型のお祭りで、ご利用者様や施設の職員と一緒に、盛り上げてくださる方や催し物のお手伝いを引き受けてくださる方、楽しんでくださる方を募集します。詳細はお問い合わせください。

- 日時／9月21日（土）8時30分〜16時00分を予定
- 場所／世田谷区立千歳台福祉園（世田谷区千歳台3-31-9）
- 交通／小田急線千歳船橋駅から京王バス千歳烏山行5分。バス停廻沢（めぐりさわ）下車すぐ
- 条件／当日の飲食代・交通費程度（支給予定）
- 問合せ／世田谷区立千歳台福祉園 TEL：03-3789-9801
メール：chitosedai@themis.ocn.ne.jp

世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いずみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は、世田谷区ホームページ内の検索ボックスで「4042」と入力してご確認ください。またはお電話にてお気軽にご連絡ください。

- 日時／月1回〜2回、日曜日の午前9時50分〜午後3時30分
- 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校（外出行事もあります）
- 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩10分
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩8分 芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩8分
- 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 TEL：03-3429-4259

東京リハビリテーションセンターに通う方の見守りをお願いします

自宅（祖師谷6丁目）と東京リハビリテーションセンター（松原6丁目）の送迎バス内での見守りをしてくださる方を求めています。歩行が不安定なため見守りが必要です。行きは自宅前午前9時、帰りは東京リハビリテーションセンターを午後3時にします。帰りはリハセンまでの戻りの同乗が可能です。行きだけ、帰りだけでもお願いしたいです。また、複数人での対応を考えています。詳細はお問い合わせください。

- 日時／水、木、金曜日 行き9時 帰り午後3時
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520
メール：kitabara@otagaisama.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)

●問合せ/最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

2024 年度夏のボランティア体験「ナツボラ&ナツボラ・ジュニア」開催します！

中学生以上の夏のボランティア体験「ナツボラ」、小学生対象の「ナツボラ・ジュニア」を今年も開催します！参加を希望される方は申込日に参加が必要です。

<ナツボラ体験申込日> (事前予約は7月5日(金) 17時からナツボラ専用ページ内にて) 7月14日(日) 10時～16時30分 6枠制@世田谷ボランティアセンター

<ナツボラ体験追加申込日> (事前予約は7月5日(金) 17時からナツボラ専用ページ内にて) 7月25日(木)、26日(金)、27日(土) いずれも10時30分～12時@世田谷ボランティアセンター

<ナツボラ・ジュニア体験申込日>

7月13日(土) 10時30分から@世田谷ボランティアセンターおよび各ボランティアビューロー



プログラム詳細はホームページでお知らせいたします。

<https://www.otagaisama.or.jp/natsubora>

夏のボランティア体験

ナツボラ

2024

参加者募集★

体験期間
7/23(火)～8/31(土)

対象：世田谷区内在住・在学・在勤の中学生以上～30歳くらいまでの方
定員：200名 参加費：500円(別途ボランティア保険代350円)

申込受付：7月14日(日) 10:00～16:30 (6枠制、最終受付15:00)
※受付時間：7月25日(木)、26日(金)、27日(土) いずれも10:30～12:00
※申込受付には、事前予約が必要です。7月5日(金) 17時より予約を開始します！

受付会場：世田谷ボランティアセンター(世田谷区下馬2-20-14)
アクセス：東急田園都市線・世田谷駅三軒茶屋駅 南口から徒歩12分

お問い合わせ 社会福祉法人世田谷ボランティア協会 後援：世田谷区・世田谷区教育委員会
Tel:03-5712-5101 / Fax:03-3410-3811 E-mail:natsu-bora_2024@otagaisama.or.jp

2024 小学生 夏休み ボランティア体験

ナツボラ・ジュニア

ささえあい生活するちから

■参加できる人：世田谷区に在住・在学の小学生
■体験期間：7月20日(土)～8月31日(土)
■参加費：1人500円
■申込日：7月13日(土) 10:30から随時
※参加費をこ持ちの上、ボランティアセンターかビューローへお越しください。
■申込場所と時間：世田谷ボランティアセンター 火曜～土曜 10:00～17:00
各ボランティアビューロー 月曜～土曜 10:00～17:00
■注意事項：ボランティア参加は1人につき1つ、2つ目は無料。お問い合わせください。
自己都合によるキャンセルの場合、返金いたしません。
感染症や天候により、プログラムを中止・変更する場合があります。
■お問い合わせ：お近くのボランティアビューローまたはボランティアセンターへ(裏表紙参照)

ナツボラ・ジュニアでは、夏休み中に、小学生にボランティアとの出会い体験の場を提供しています。
体験を通じて、地域での活動がどのような心持ちでできるかを育めることを目指しています。
ぜひご参加ください

主催：社会福祉法人世田谷ボランティア協会 後援：世田谷区・世田谷区教育委員会

うたで誰もが輝く時間～子ども合唱祭 in 東京

世界70以上の国と地域に広がり、日本では2012年に福島県相馬市で始まった無償の音楽教育「エル・システム」。成長した相馬の子どもたち、はじめての上京を楽しみにしている舞鶴の子どもたちの清涼な歌声を届けます。盲学校の子どもたちを中心とした、インクルーシブで卓越性も目指すコーラスグループ「東京子どもアンサンブル」もお楽しみに。身近な芸術文化を通して共生社会を実現しています。名曲ぞろいのプログラムですが、対立のやまない現在への思いを皆で歌う「こどものへいわ」は東京初演となります。おとなの皆さま、どうぞ聞きにいらしてください。

●日時/7月15日(月・祝) 13時30分～15時30分

●会場/国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール(渋谷区代々木神園町3-3カルチャー棟)

●交通/小田急線参宮橋駅徒歩7分

●参加費/

<自由席>大人2000円、18歳以下1000円、

障害者手帳をお持ちの方(大人1500円、18歳以下500円)、付き添い者1名まで無料

<指定席>寄付つきチケットをお求めの方

・視覚に障害のあるお客様へ、事前に演目の紹介など公演説明会をおこなっています(要申込)

・公演と持続的な教室の運営のための協賛金を一口3000円で募っております(ご芳名の掲載あり)

●申込/下記ホームページリンクから、または問合せ先にご連絡ください。

●問合せ/エル・システムジャパン TEL:090-6479-2444(菊川)

メール：<https://www.elsistemajapan.org/>

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL:03-5712-5101

メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL:03-5712-5101

メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト(世田谷版G B E R「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は6月15日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

〒157-0065 上祖師谷1-11-14(千歳烏山駅 徒歩12分)
烏山ボランティアビューロー
TEL 03-6909-0333 FAX 03-6909-0355

千歳烏山駅

〒154-0004 太子堂4-26-9
(三軒茶屋駅 徒歩5分)
スペース ココカラ。
(ぽーとせたがや・パートナーセンター)
TEL 03-6804-0405

明大前駅

下高井戸

〒154-0022 梅丘1-8-9(梅ヶ丘駅 徒歩5分)
北沢ボランティアビューロー
TEL 03-3420-2520 FAX 03-3706-2854

梅ヶ丘駅

下北沢駅

〒154-0002 下馬2-20-14(三軒茶屋駅 徒歩12分)
世田谷ボランティアセンター・せたがや災害ボランティアセンター
せたがやチャイルドライン事務局 TEL 03-5712-5101 FAX 03-3410-3811
ケアセンターふらっと TEL 03-5712-5105 FAX 03-3410-3813

三軒茶屋駅

〒157-0066 成城6-3-10(成城学園前駅 徒歩3分)
砧ボランティアビューロー準備室
TEL 03-6411-4007 FAX 03-6411-5888

成城学園前駅

〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋(三軒茶屋駅 徒歩20分)
1階 ケアセンターwith TEL 03-6805-4715 FAX 03-6805-4718
2階 ケア相談センター結(ゆい) TEL 03-5433-2830 FAX 03-6383-2156
2階 ケアステーション連(れん) TEL 03-6805-4716 FAX 03-6805-4718
2階 地域障害者相談支援センターぽーとせたがや TEL 03-6804-0405 FAX 03-6383-2156

二子玉川駅

〒158-0094 玉川2-1-15(二子玉川駅 徒歩5分)
玉川ボランティアビューロー
TEL 03-3707-3528 FAX 03-3708-3058

相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
障害について ▶ 【ぽーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こういったボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、お気軽にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。



協会ホームページ、
Facebook、Instagram は
こちらの二次元コードから



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。